



「姨捨の棚田」魅力を歌に 千曲の有志らCD発売へ

3月14日(金)11時26分

千曲市民ら有志でつくる「長楽会」が16日、同市八幡の国名勝「姨捨の棚田」をテーマにしたCD「棚田姫」を発売する。棚田近くの長楽寺でライブを続けるシンガー・ソングライターでギタリストの吉川忠英さん(66)＝東京＝が曲を作り歌った。棚田や月の美しさを伝える内容で、榎家(だんか)のいない長楽寺を支援しようと、売り上げはお布施として長楽寺に贈る。同日、吉川さんは寺でライブをし、曲を披露する。

棚田姫は、ギターのゆったりとした優しい音色で始まる。日が沈み、姨捨の棚田に月が昇る様子を歌った内容。昔から変わらず悲しみを癒やし、心が休まる場所—としている。CDは楽器演奏が中心のインストゥルメンタルも入っている。

歌詞は市内の名勝を歌った舞曲「信州さらしな月の里唄(うた)」を作詞した並木真人さん(70)＝千曲市桑原＝と共に作り、吉川さんが作曲した。地元フォークソンググループ「さらしな棚田BAND」の森智恵美さん(54)＝同市羽尾＝と一緒に歌っている。

吉川さんはイルカさんの「なごり雪」や荒井由実さんの「やさしさに包まれたなら」のレコーディングに演奏で参加、福山雅治さんのアルバムのサウンドプロデューサーなどとしても知られる。

数年前、漬物など製造の宮城商店(千曲市中)の直売所「木(こ)の花屋本店」でライブを始めた。同社専務の宮城恵美子さん(53)が姨捨の棚田から上る月の写真を見せたところ気に入り、2010年から長楽寺でもライブを開くようになった。

長楽寺に榎家がいないと知った吉川さんは「少しでも支援したい」と12年11月からほぼ毎月1回、満月ライブを開き、経費を除いた売り上げを長楽寺にお布施として渡すようになった。

「これだけの月を見せてくれる場所は日本中にほかにない」とまで思うようになった吉川さん。「子どもからお年寄りまで歌えるフォークソングを作りたい」と知人の並木さんに歌詞を依頼した。「棚田、米、水、景色、いろいろな美しい財産を守っていかねければとの思いを込めた」

CDは吉川さんや宮城さんらがつくる長楽会が千枚作り、1枚500円(税込み)で販売する。16日の満月ライブは午後4時半開演。会費は2千円(食事付き)で事前申し込みが必要。CD、満月ライブの問い合わせは木の花屋本店(電話026・274・3001)へ。



姨捨の棚田をテーマにしたCD「棚田姫」と16日の満月ライブの打ち合わせをする宮城さん(左)